

区内企業に見る

ワーク・ライフ・バランスの取り組み

ワーク・ライフ・バランスの実現に取り組み区内の先進企業にお話を伺いました

「技術職が末永く働ける環境づくりを」 川村義肢株式会社

ものづくりの素晴らしさを次世代を担う子どもたちにしっかりと伝えていきたい

1946年に東大阪市に設立、以来、義肢装具を通じて身体に障害を抱える方の生活を支える川村義肢株式会社。現在は、大東市に大阪本社を移転、さらに2014年には関東圏の営業所を統合し、江東区北砂に東京本社を開設しました。「統合前にこの地を下見した際、第二の創業の地とも言える寝屋川事業所の面影と重なり、先代から続く創業時の想いを継承するには絶好の場所だと直感しました」そう語るのには、関東本部長であり、社長室室長も務める羽佐田和之さん。実は、保育所や小学校が隣接することも、この地を選んだ重要なポイントだったとか。「社員に母親が多いこともあり、保育所が近くにあることをとても好ましく思います。また、普段ものづくりの現場に

長く働いてもらうためには個々に応じた雇用シフトとメンタルフォローがカギ



東京本社にはおおよそ70名、うち女性社員は約40名と過半数を数えます。事業は、義肢装具を製作する製造部門と、病院等へ出向いて医師の指示のもと装具の型取りを行い、納品する営業部門とに分かれています。知識だけでなく経験やコミュニケーションも問われる職種。「特に、女性の場合は仕事と家庭、両方に一生懸命になりすぎて、早く燃え尽きてしまう方も少なくないように思います」(羽佐田さん)

「義肢装具士は全国でも数千人と非常に貴重な存在。だからこそ、多様な働き方で支えてあげる必要があるのです」



広報を担当する内山さん。「小学生の見学で最初興味をなさそうだった男の子が、義足の歩行動画を見て『すごい』と全身で感動していた姿は、今も忘れられません」

お客さまと話し合いながら装具のフィッティングを行う営業担当の運見さん(左)とご自宅に訪問してのサービスを担当している義肢装具士の栗山さん(右)。

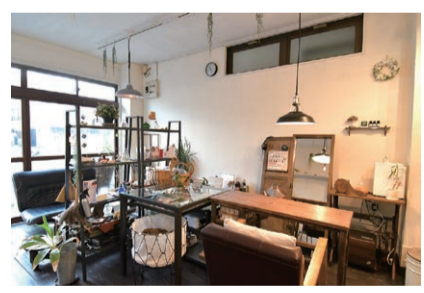


仕事と育児の両立をめざし、まつ毛エクステンションサロンを自宅近くに開業

コツコツ資金をためながら開業準備を

田中さんは、夫と二人の息子さんの4人家族。自宅近くにまつ毛エクステンションサロン「ジェ ブリエ」を開き、女性の目元を美しく導いています。独立開業をめざしました。

「育児と両立しながら仕事をするには、自宅の近くにサロンを作るのが理想」と、家事や育児の合間にサロン勤めや出張へアメイクの仕事をしながら資金を貯めつつ、男女共同参画推進センターの「女性の起業家入門セミナー」を受講。「志が同じ仲間と出会え、輪が広がりました」と言います。



木の温もりあふれる落ち着いた空間です。HP: jebrille-mt.com

アイデザイナー 田中真由美さん

子ども達とふれあう時間を第一に

忙しい毎日ですが、家族のために食事はなるべく手づくりを心がけ、子どもたちとふれあう時間を確保することを第一に考えています。「時間に追われて余裕がなくなり、きつく叱ってしまうこともありますが、そんな時はすぐに謝るようにしています。頑張るママの姿を見てもいいながら、お互いに成長していきたいですね」

江東のひと

育休中は子育てひろばに積極的に足を運ぶ

3歳の男の子の父親であり、「江東区パパ友の会」のメンバーでもある安藤さん。「せっかくだからこそ授かったのだから、育児とみっちり向き合いたい」と、1年間の育児休暇を取得し男女共同参画推進センターのパパセミナーに参加しました。「講座を通して、出産後、授乳など



週末は「昼寝なしで遊びます」

区内の働くママに仕事と育児について、イクメンパパに育児や家庭生活の心がけなどについて伺いました。

仕事は定時で終わらせ家族と必ず夕食を

こんな安藤さんのモットーは、「仕事は定時で終わらせ、夕食は必ず家族と一緒にとる」ということ。

「週に1度パートを始めた妻の仕事も応援し、お互いの育児のネットワークを共有しながら地域に呼びかけ、パパ達の意識を少しでも変えていきたいと思っています」

会社員 安藤 紀彦さん

残業ゼロを心がけ、家族と過ごす時間を大切に

イクメンパパ

父親として積極的に育児に参加する中で、「核家族で周りに知り合いもあまりなく、子育てで苦労している夫婦が多い」ということを実感した安藤さん。地域の子育て情報をシェアした

り、親子で気軽に参加できるイベントを企画し、皆で育児を楽しむことを目的に、SNSで地域のコミュニティを発足しました。「町内会のお祭りの時にもみこしの参加を呼びかけるなど、家族ぐるみで地域に関わるような働きかけも行っています」